

令和2年度第2回岡山市女性活躍推進協議会要旨

- 1 日 時 令和3年2月9日(火)午前10時～午前11時30分
- 2 場 所 岡山市役所ほっとプラザ大供 第2研修室
- 3 出席委員 伊丹委員、入船委員、亀井委員、河内委員、阪口委員
須々木委員、藤井委員、的場氏(竹原委員代理)
- 4 出席職員 市民協働局 奥野参事監
女性が輝くまちづくり推進課 安東課長、河本課長補佐、神崎主査
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 事
(1)岡山市の事業について
(2)コロナ禍での女性への影響について
(3)その他
- 7 配付資料
資料1-1 令和2年度岡山市女性活躍推進に関する事業報告
資料1-2 令和2年度女性活躍推進シンポジウム報告書(抜粋)
資料2 コロナ禍での女性への影響について
※当日配付資料
入船委員から 新型コロナウイルス感染症に関する事業主へのリーフレット3部
的場氏から 重点事業調書等
事務局から 講演会チラシ 1部

8 会議の状況

議事1 令和2年度岡山市の事業について

資料1-1、1-2により、事務局から説明

【質 問】

- ・男性管理職セミナーへの参加者の業種は。
➡後日メールで回答(製造業、サービス業、運輸業、金融業等の役員や管理職が参加)
- ・女性の再就職支援事業の受講者の募集方法、事業後に就職した人の割合は。
➡募集はチラシを小学校等に配布。実施後に就職した人の割合は現在事後アンケートの集計中だが、過去には約1割が働いた経験があり、今回も同様ではないかと思う。

議事2 コロナ禍での女性への影響について

【連合岡山】

- ・女性へのコロナの影響が大きかったのは、女性の非正規労働者が非常に多いからである。労働法制の規制緩和、特に労働者派遣法の改正以降、現在全労働者の4割を占めるまでに増えた非正規労働者をなくす必要があるのではないか。非正規労働者の正規(正社員)化、雇用の安定、生活できる賃金が必要である。
- ・コロナ対策として補助金、貸付金、年金の繰り上げ返済等、様々な制度が整備されたが、本当に必要とする人にお金が届いているのか疑問。定額給付金や消費税引き下げなど、困った人にいきなりやすい制度の整備が必要だ。

- ・中小企業を支援する様々な制度も手続きが非常に煩雑。わかりやすい制度が地元企業を守ることになり、雇用の継続や賃金の確保につながるのではないか。
- ・連合の組合員は正規労働者が圧倒的多数だが、岡山では、小売り・サービス業の女性非正規労働者も多く、コロナの長期化による影響が心配だ。コロナ後、経済ができるだけ早く回復し、多くの企業が立ち直り存続することが、女性だけでなく男性の雇用、ひいては生活の確保につながっていく。

【岡山労働局】

- ・パート・アルバイトなど非正規で就労する女性が多い宿泊業、飲食、サービス業、小売業などでは、コロナの長期化による女性への影響が出ている。
- ・令和2年12月の岡山県の有効求人倍率は1.41倍で全国第2位。求人が求職を上回ったが、女性労働者の多い卸・小売業、宿泊業、飲食、サービス業等の求人は、例年より大幅に減少、女性の雇用に大きな影響が出ていると考えられる。
- ・労働局の新型コロナ関連の施策：
 - ①「雇用調整助成金」は、従業員の雇用維持を図るために雇用調整（従業員を休業させる）を行う事業主に対して休業手当などの一部を助成する。利用を勧めている。1月末までに約3万4千件の申請があった。手続きが煩雑、利用しづらい等の指摘から見直しを行い、迅速な処理に取り組んでいる。
 - ②「新型コロナウイルス感染症に関する母性健康管理措置」は、感染への心理的ストレスが、母体や胎児の健康保持に影響があるとして、医師や助産師から指導を受け、それを事業主に申し出た場合、事業主はこの指導に基づいて、必要な措置を講じなければならない。この措置により、休業を必要とされた妊娠中の女性労働者のために有給の休暇制度を設けて取得させる事業主を支援する助成制度も設けており、その周知をしている。
 - ③「小学校休業等対応助成金」は、小学校等が臨時休業した場合等に、その小学校等に通う子の保護者である労働者の休職に伴う所得の減少に対応するため、正規雇用・非正規雇用を問わず、有給の休暇を取得させた企業に対する助成金。
 - ④テレワークが新しい働き方として普及しているが、良質なテレワークの普及推進のためのガイドラインや、良質なテレワークを導入した事業主に対する助成金の周知も行っていきたい。テレワークは感染症拡大防止対策としてだけでなく、仕事と子育て等との両立においても有効だと思われる。

【岡山市】

- ・政府が2003年に設定した「2020年までに指導的地位に占める女性の割合を30%にする」という目標は達成されていないが、女性活躍は少しずつ進んできた。コロナ禍で経済が停滞し、民間の女性活躍推進に翳りが出るのではないかと懸念している。
- ・労働力調査によると、2020年正規職員・従業員数は増加するも、非正規は大幅に減少。非正規の約7割が女性で、多くの女性が職を失っている。
- ・テレワークが進む中、家事・育児は女性が担うこと多くなり、女性の負担が増加した。家庭における夫の家事分担を促進していく必要がある。
- ・外出自粛やストレスの増加からDV被害の増加・深刻化が懸念される。DV被害者が相談できるよう、岡山市男女共同参画相談支援センターの周知に努めている。
- ・子育てと仕事を一人で担う低所得のひとり親世帯に特に大きな困難が生じていることを踏まえ、育児負担の増加や収入減少に対する給付金を支給している。
- ・新年度、女性の再就職支援事業は継続。非正規雇用の女性を対象とした正規雇用に向けてのライフデザイン事業を新規で行う予定。

【NPO 法人 ぱらママ】

- ・市や県の再就職支援講座の受講者は、今すぐ働かなくてはという危機感がなく、む

しろ今は就職活動を見合わせているようなので、もっと危機感を持って働く気になるよう背中を押したい。

- ・オンライン講座など、新しいやり方に対応しようとしめない人は、変化する社会についていけない。女性自身が雇用を継続される人材にならないといけない。
- ・講座の受講者の声などからは、正社員として雇用される努力もせず、またその気になれば職はあるのに、非正規は休業補償の対象とならないなど、不満ばかり言っているように感じる。

【岡山県】

- ・県内の配偶者暴力相談支援センターにおけるDV相談件数は4月から12月までの対前年比104%。4、5月は定額給付金関係の問い合わせが多く、前年を大きく上回り、その後落ち着いていたが、10月以降3か月で前年を上回った。性犯罪・性暴力に関する相談件数も前年比110%となっている。引き続き状況を注視し、全国データも参考にしながら相談業務を通じた情報収集、分析を行っていくこととしている。
- ・年度内にインターネットによるアンケート調査を実施することとしており、その調査結果等を見ながら今後内容等を検討していきたい。

【損害保険ジャパン(株)】

- ・3月の早い時期に社内全体で在宅勤務5割体制とする指示が出た。支店業務は営業部門と保険金支払いの2部門に大別されるが、営業部門は代理店のフォローが主な業務であり、電話やデジタル活用で業務が可能なため在宅勤務を取り入れやすく、約70%で実施した。保険金の支払業務は、写真、病院のレセプト等紙ベースのやり取りが多く、また顧客の個人情報が含まれるため、自宅に持ち帰ることができず、7割までは達成できなかった。また、郵便物等の受発信業務を担うアソシエイト職員の出勤率が非常に高くなり、不公平が生じていることが途中で露見した。そこで、あらためて仕事を再配分し、なるべく全員が公平にリモートワークのできる体制にした。リモートワークが難しい職員には、時差出勤の利用を促して感染症拡大防止に努めた。
- ・2019年から営業部門では、顧客への訪問をなくし、旧来型の仕事の仕方を見直そうとしていたが、様々な問題により定着しなかった。今回のコロナ禍をきっかけに、解決のために会社が本気で乗り出し、非常に使いやすくなった。支払部門においてもLINEの活用など、入社せず自宅のできる仕組みを取り入れ、5割の実施が可能となった。社員が安心して働ける環境が整ったことで、女性が働きやすい環境の実現にもつながっていると考える。

【JA岡山女性部】

- ・地域の女性活躍のため、地域密着の活動をしているが、コロナ禍で人の集まる朝市や体操教室などのイベントは中止となったが、会議や講演会などは、オンラインを活用して行っている。
- ・毎年1月に開催している「男女共同参画のつどいin岡山」も中止された。運営に関わる女性の割合を15%にする目標は達成できていないが、今後もJA役職員と対話を重ねて女性部の地域との関わりや役割等について学習していきたい。
- ・女性部員の高齢化が進み、部員減少が深刻な問題であり、リーダー候補を育成する研修の実施を要望している。
- ・「できることからはじめよう」を合言葉に、withコロナにおける新たな取組に挑戦していきたい。

【中国銀行】(委員が欠席のため事務局から資料をもとに発表)

- ・休校や同居家族の体調不良時、外食自粛により、家庭での負担が増加している。

家庭における役割分担の推進が必要。会社としては、柔軟な勤務体系や休暇制度により一部対応している。

【就実大学】(委員が欠席のため事務局から資料をもとに発表)

・研究者として見た現状と課題について

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、大企業を中心に多くの企業がこれまでにないスピードで「働き方改革」を進めていると感じる。

具体的な取り組みの大きな柱が「テレワーク」の導入である。企業倫理や企業の社会的責任の観点から見ると、こうした動きは次のような理由から積極的に評価されるべきである。①新型コロナウイルスの終息が見えない中、従業員の安全確保のために可能な限り取り入れられるべきであること、②感染防止策としてだけでなく、「働き方の見直し」や「働き方の多様化の推進」に繋がること。

・教育者としての見た現状と課題

テレワークに対する学生の関心は高まっていると感じる。今後、コロナ終息後もより多くの「働き方の選択肢」を提供している企業を志望する学生が増えていく可能性がある。そのため、学生が自らのキャリアを考えることの重要性がこれまで以上に高まり、学生のキャリア教育の必要性がますます強まっていくのではないかと感じている。

【岡山商工会議所】

・昨年4～12月末まで、中小企業、小規模事業者を対象に事業継続支援を市とともに行った。また、年末年始に消費喚起策として、PayPayのキャンペーン実施を岡山市に働きかけ実現した。

・GoToキャンペーンが中止となり、年末年始のかき入れ時が失われ、事業者、特に飲食業の売上げが一段と下がった。

・飲食・宿泊・交通・観光業などへの打撃が非常に大きく、国への働きかけも考えている。

・昨年10月に、岡山市・岡山商工会議所・市内4商工会が共同で新型コロナウイルス感染症に関するアンケートを実施した(回答数3,389社)。

全体の20.5%、692社が人員削減を実施、又は検討していると回答した。中でも飲食業の36.5%が人員削減を実施していると回答し、検討中も含めると53.8%となった。女性の非正規労働者が多い業種において特に厳しい状況となっていることが分かる。今後の状況次第ではさらなる悪化が懸念される。

<主な意見、質問等>

※テレワークについて

・良質なテレワークについて教えて欲しい。

・「テレワークにおける適切な労務管理のためのガイドライン」があり、適切な労務管理を行うための留意点を明らかにしたもの。調査では、労働時間の問題のほか、通信料や電気料金の負担など、課題も出ている。

・リモートワークで女性の負担増が心配されるが、メリット・課題など具体的に意見が出ているか。

➡営業社員は会社貸与のパソコンがあるが、事務社員には貸与がないので、自宅での通信環境をどうするのか、自宅の電話番号を取引先に開示するのか等、細かい課題も出ている。管理職からは労働時間を把握するのが難しいという声もある。また、時間単位休暇が取れるようになっているが、周知が十分でなく、正しく使えていない。テレワークの仕組みはできているが、どう運用していくかが課題。

➡働く意思のある育児中の女性が短時間で働いているので、コロナ前からテレワークや子連れ出勤もしている。雇用か業務委託か本人の希望で選択しており、それぞれ半分ずつくらい。日報と兼ねて業務内容を自己申告してもらう。

※ 非正規雇用について

- ・非正規がよくないもののように聞こえるが、あえて非正規で短時間だけ働きたい、起業したい、ダブルワークをしたいなどの人にとっては、正規が増えると選択肢が狭まるのではないかと考えるがどうか。
- ・正規でフルタイム、非正規で短時間労働、どちらにしても能力を発揮できる働き方ができるのは素晴らしいと思う。同一労働同一賃金の考え方では、短時間＝低賃金ではなく、仕事の内容に応じた賃金を払うという考え方で、このルールは4月から中小企業においても義務化される。自分の処遇に納得いかない人は、企業に説明を求められることができる。副業・兼業もガイドラインを作っている。
- ・自ら非正規を選んでいる人は問題ではなく、非正規を選ばざるをえなかった人には安定した仕事に就いてほしい。一方、正規社員はもう少し柔軟に働ける制度を企業側に整備してほしいところ。
- ・非正規しか選べなかった人は、能力や経験など、会社が求める条件を満たしていなかったのではないか。
- ・自ら非正規を選んだ人に関する調査がなく、実態が見えない。女性はあえて非正規を選んでいる傾向があるので、女性の非正規＝困窮している、というのは話が飛躍しすぎているのではないか。
- ・休業補償給付制度は非正規の方も対象になることが知られていないのではないかと思う。
- ・女性の中にはITが不得意な人も多いので、そういう面からの支援も協議会の中で検討していければと思う。
➡「ITへの対応」としては、市の女性の再就職支援事業の中で講座を行っているが、今後も意識して行っていきたい。

※HPやSNSを活用した情報共有・発信について

<岡山市からの提案>

- ・女性活躍推進協議会のメンバーが女性活躍に関する情報を発信できるよう、市HPの充実を検討している。各機関で活用しているSNSでも、女性活躍や働き方改革に関する情報を発信していただきたい。
- ・できれば協議会のHPを立ち上げ、各機関の取組状況を紹介するコンテンツを作りたい。また、SNSを活用してHPを周知していきたい。

<主な意見、質問等>

- ・HPは見る人が少ない。SNS、インスタでハッシュタグ#をつけて投稿する等、色々なところに情報発信していければと思う。
- ・意見を吸い上げることまでは考えていないが、可能であれば検討したい。
- ・HPあつてのSNSだと思う。対象が企業、管理職、女性なのかを明確にしてほしい。対象に合ったSNSで発信していくのが良い。SNSではないが「市民のひろば」が一番発信力があると思う。
- ・各機関の事業についても発信してもらえるのか。
- ・今までの意見も踏まえて、改めて効果的な情報発信の案を提案してほしい。

議事3 その他

- ・岡山県の来年度の新規事業について報告。産学官の実務担当者をメンバーとする「オール岡山女性活躍推進プラットフォーム」を新たに設置し、女性活躍を推進していきたいと考えている。活動内容の詳細は今後検討。主に、共有、反映、育成、波及を想定。協力をお願いしたい。
- ・次回会議は来年度4月の予定。